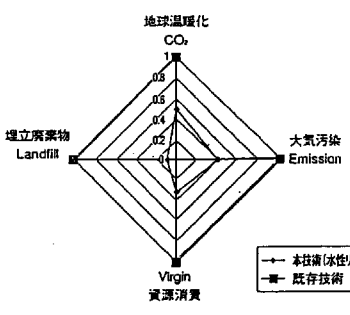




# 持続可能な社会の実現に貢献する

## 化学技術



第1回GSC賞受賞 日本ペイント「水性リサイクル塗装システム」

「人と環境の健康・安全」を目指し、持続可能な社会の実現に貢献する化学技術(グリーン・サステイナブル・ケミストリーGSC)が定着しつつある。任意団体がGSCの業績表彰やシンポジウムなどを展開。財団法人ではGSCを基盤とした「サステイナブル・テクノロジ戦略」(ST戦略)を策定し、第3期科学技術基本計画に反映されることを目指している。経済産業省もGSCで表彰された技術の開発プロジェクトを05年度予算の概算要求に盛り込むなど注目をしている。

### グリーン・サステイナブル・ケミストリーが定着

### 国家戦略に位置づける

98年に経済協力開発機構(OECD)の場で、持続可能な社会の実現に向けてGSCを推進することが決議されたのをきっかけに、世界的に大きな潮流に発展することになったという。日本では経産省の指導のもと、00年3月に任意団体のグリーン・サステイナブル・ケミストリー・ネットワーク(GSCN)が設立。財団法人の化学技術戦略推進機構(JCII)も、02年度からは産業技術の発展に資する化学技術・製品と比較して優秀を判定する方法だ。第1回GSC賞を受賞した日本ペイントの「水性リサイクル塗装システム」の

「省資源・省エネルギーを実現する化学技術」と定義。GSC賞を運営したり、シンポジウムを開いたりしてGSC普及に取り組んでいる。GSC賞は98年に創設。02年度からは産業技術の発展に資する化学技術・製品と比較して優秀を判定する方法だ。第1回GSC賞を受賞した日本ペイントの「水性リサイクル塗装システム」の

「製品設計、原料選択、製造方法、使用方法、リサイクルなど製品の全ライフサイクルを見通した技術革新により、『人と環境の健康・安全』、環境負荷削減に貢献した業績には環境大臣賞が贈られている。03年度までに合計9件が受賞。GSCNでは、社会への浸透を待って総理大臣代田区で開く計画だ。

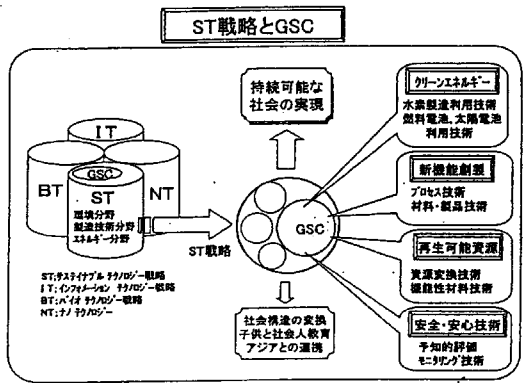
このほか、GSCNと日本産業技術振興協会はGSCに関する第5回シンポジウムを05年3月の7、8の両日に東京都千代田区で開く計画だ。

一方、JCIIは3月に「環境にやさしい化学技術(GSC)」を基盤とした「サステイナブル・テクノロジ戦略」(ST戦略)をまとめ、策定準備中の第3期科学技術基本計画に反映させようとしている。

欧米でもGSCを国家戦略の対象とする傾向にあるが、経産省でも、J

賞の創設も期待している。

GSCに関する評価方法には国内外で多くの手法があるが、GSC賞の選考では、安井至東京大学教授(現国際連合大学副学長)が主張していた評価方法「安井式4軸法」を使用。これは新技術・製品の評価を①エネルギー(またはCO2) ②新資源消費量③汚染型環境負荷④最終処分量(埋立量)の四つの方



出所：財団法人化学技術戦略推進機構